

西尾末廣一派の裏切行爲を糺弾す

總務局の殺人的狂暴に對して、今日尙ほ總對的決戦を期しつゝあるわれわれとして、血で血を洗ふの愚はもとより忍ぶ能はざる所である。然し乍ら西尾一派の逆宣傳は、早に組合總聯合の名譽を言はず、金日本の労働組合主義の名を辱かしむるのなるに鑑み、一應極めて簡單な條件を提出し、之れが詳細に至つては、不日詳を新たにして、之を盡さんとするものである。もしそれ、總同盟西尾一派の裏切行爲、糾弾に就ては、時宜を得て、十二分の舉に出づるものである。

鐘紡兵庫工場争議解決條件の形式及條件は必ずしも大勝利とは言へぬ、然し従業員のための最善の努力とその結果たるは信じて疑はないのである。しかるに總同盟西尾一派が何故に又如何なる根據によつて逆宣傳をなしかも事實上會社側に加擔するが如き裏切行爲を執るか？

西尾等の陰謀

一、西尾一派が無策無爲無能にして解決のため交渉をなす能はず、従業員が次第に離反せんとする状態を喰止めんとした事

猫の眼の如く變る糺弾理由

四月三十日、某新聞が號外を以て、「無條件降伏」と諷刺するや、鬼の首でも取つた如く逸早く、惡聲を放ち、翌日の新聞紙より表面上無條件解決の形式をさるも事實は、條件を覺悟によつて締結されたる事實が傳へらるるや「形式が非階級だ」云、宣傳し始め、十ヶ條の條項が漸次判明し來つて、比較的有利なる解決條件を獲得したる事を知るや、こんどは「單獨秘密解決」が怪しからんといふ事になつたのである。かくして、彼等は、遂に支へ切れず五月五日、淀川工場従業員約百五十名

装はとするものである。かゝる状態に於て我々は會社と従業員との間に介在

真相は斯うだ!!

勿論、藤井達二君は、所謂、鐘紡重役ではない。しかし彼は居を、神戸市に於ける會社取締役多和田啓太郎方に構へ、終始、河上、坂本等と交渉すると同時に、一方毎日數回鐘紡重役(長尾、澤田、三宅、廣瀬等)と折衝し、或は公然組合幹部與平を場内中食堂に於ける所謂臨城現場に案内して直接従業員の意見を徴せしめ、或は、二重門を築造し、鐵條網を張り、見張所を設け、暴力團を雇入れて警戒し、外出男工のしめ出しを敢行して、従業員の出入を嚴禁したる時に於て、堂々男女五十六名の従業員大會委員を場外に引き出して、河上、坂本兩君と會見して解決條件協議の便を與へ、再び、之を入場せしめ、或は、解決に際し、安藤正躬、入野廣兩君外三名の従業員代表者と、會社側、廣瀬工場長三宅參典等と構内、兵庫支店樓上に於て挨拶の交換をなしたる時は、終始立會人と

して、斡旋したるが如きその他充分會定をなしたるものである。もしそれ、「單獨秘密」解決の際に至つては、強牽附會の甚だしきものであつて、我等こそ連絡と共同に極力努力を加へたるものである。會つて従業員代表五名が、兵庫縣知事に陳情に赴きたる際、西尾はひそかに、之を歸途に擁して策動せんとして失敗せる。その態度を何と説明するか西尾は、坂本と河上よりの會見申出でを拒否し、斡旋者を憤激せしめたる事實を何と説明するか、而もわれわれは尙之等の事情を忍んで、解決の氣運に向ふや、再三、再四、電話を以て淀川工場争議責任者の來談を求め、遂に、五月二十五日、總聯合神戸聯合會佐野芳雄をして、總同盟淀川争議團幹事村尾に「解決の機運に迎ひたるに依り條件等の打合せをしたし」と申込ましめたるに村尾は「神戸と大阪とは状態が違ふからそつちは、そつちで勝手にやつて呉れ給え」との確答ありしに依